

**宮 城 県 の 経 済 動 向**  
**平成 2 2 年 第 3 四 半 期**  
**( 7 月 ~ 9 月 期 )**

## 本県の経済概況

平成 22 年第 3 四半期 (7 月 ~ 9 月期) の宮城県経済の動向をみると、生産は、横ばい傾向にある。住宅投資は、持ち直しの動きがみられる。公共投資は、減少となった。個人消費は、一部に政策効果がみられるが、弱い状態が続いている。雇用は、厳しい状況が続いているが、改善に向けた動きがうかがわれる。企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加となった。

このように、景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、依然厳しい状況が続いている。

### 〔前期 (平成 22 年 4 ~ 6 月期) の概況〕

生産は、持ち直しの動きがみられる。住宅投資は、引き続き低調に推移しているが、一部に下げ止まりの動きがみられる。公共投資は、減少となった。個人消費は、一部に政策効果がみられるが、弱い状態が続いている。雇用は、厳しい状況が続いているが、やや改善に向けた動きがうかがわれる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。このように、景気は依然厳しい状況にあるものの、生産を中心に持ち直しの動きがみられる。

### 生 産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 3 期連続の上昇となった。前期比は、6 期ぶりに低下となった。

大口電力使用量は、前年同期比が 4 期連続の増加となった。前期比は 2 期連続の増加となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 3 期連続の増加、貸家は 15 期ぶりに増加、分譲住宅は 3 期連続の増加となった。

全体では 2 期連続の増加となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同期比は、県は 5 期連続の減少、国は 3 期連続の減少、市町村は 2 期連続の減少となった。

全体では 3 期連続の減少となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額 (百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較) は、前年同期比が 44 期連続の減少となった。衣料品は 19 期連続の減少、飲食料品は 7 期ぶりに増加となった。

### 自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 5 期連続の増加となった。車種別の前年同期比は、普通車は 5 期連続の増加、小型車は 4 期連続の増加、軽自動車は 3 期連続の増加となった。

### 物 価

仙台市消費者物価指数 (平成 17 年 = 100) は、総合指数は、前年同期比が 7 期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が 7 期連続の低下となった。食料 (酒類を除く) 及びエネルギーを除く総合指数は、10 期連続の低下となった。

### 雇 用

有効求人倍率 (原指数) は、前年同期差が 2 期連続の上昇となった。新規求人倍率 (原指数) は、前年同期差が 3 期連続の上昇となった。

実質賃金指数 (製造業・30 人) は、前年同期比が 3 期連続の上昇となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が 2 期連続の減少となった。負債総額は前年同期比が 2 期ぶりに増加となった。

# 主な指標の動き

## 1 生産

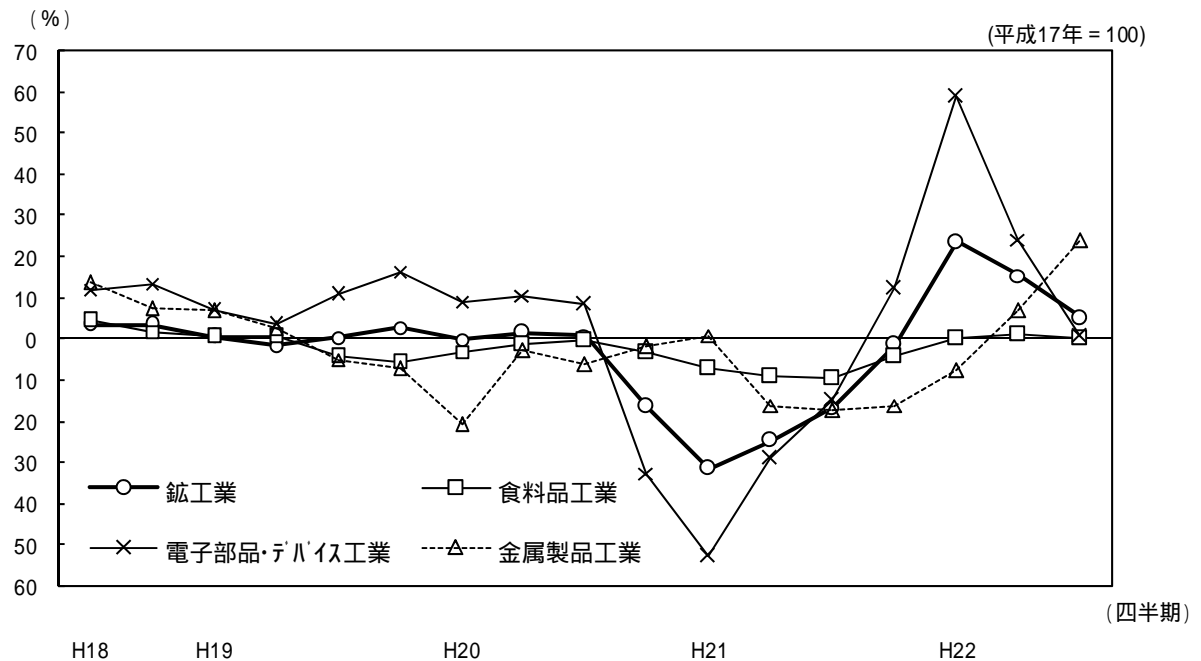
### (1) 鉱工業生産指数

平成 22 年第 3 四半期 (7 月 ~ 9 月期) の鉱工業生産指数 (季節調整済) は 90.4 (平成 17 年 = 100) で、前年同期比 (原指数での比較) が 5.0% の上昇となり、3 期連続の上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が 0.6% の上昇となり、4 期連続の上昇となった。食料品工業は前年同期比が 0.1% の低下となり、3 期ぶりに低下となった。金属製品工業は前年同期比が 23.8% の上昇となり、2 期連続の上昇となった。一般機械工業は前年同期比が 9.6% の低下となり、3 期ぶりに低下となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が 1.6% の上昇となり、4 期連続の上昇となった。

前期比では 2.8% の低下となり、6 期ぶりに低下となった。

四半期別鉱工業生産指数前年同期比の推移



(資料:宮城県統計課)

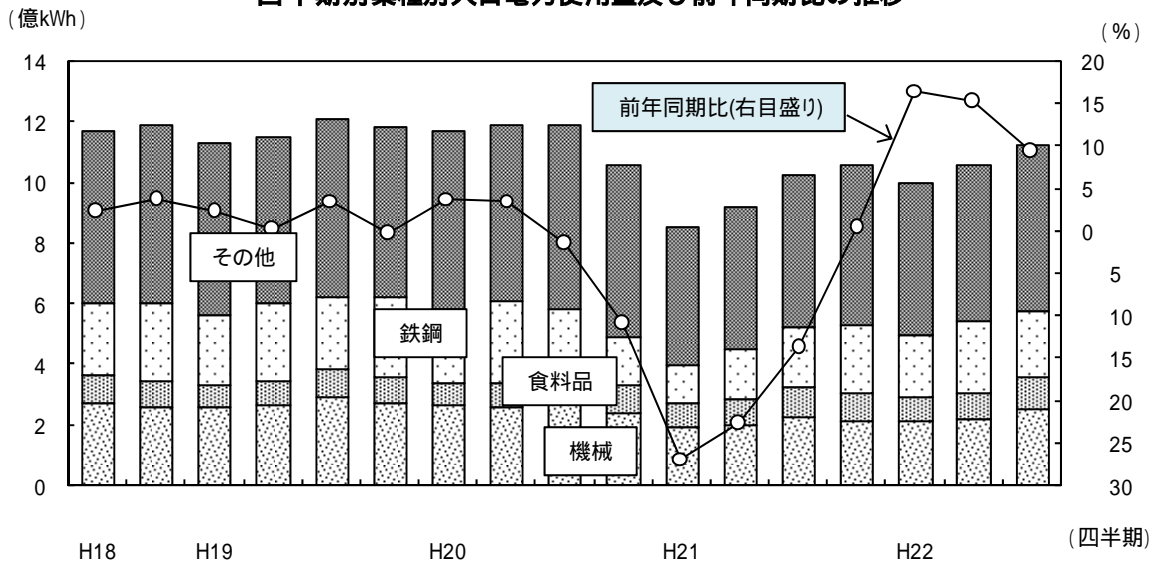
## (2) 大口電力使用量

平成22年第3四半期(7月～9月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は11億2,452万KWhで、前年同期比が9.4%の増加となり、4期連続の増加となった。

主要業種別に見ると、食料品分野は前年同期比が6.6%の増加となり、平成16年第3四半期以降、25期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が11.8%の増加となり、3期連続の増加となった。鉄鋼分野は前年同期比が10.2%の増加となり、4期連続の増加となった。

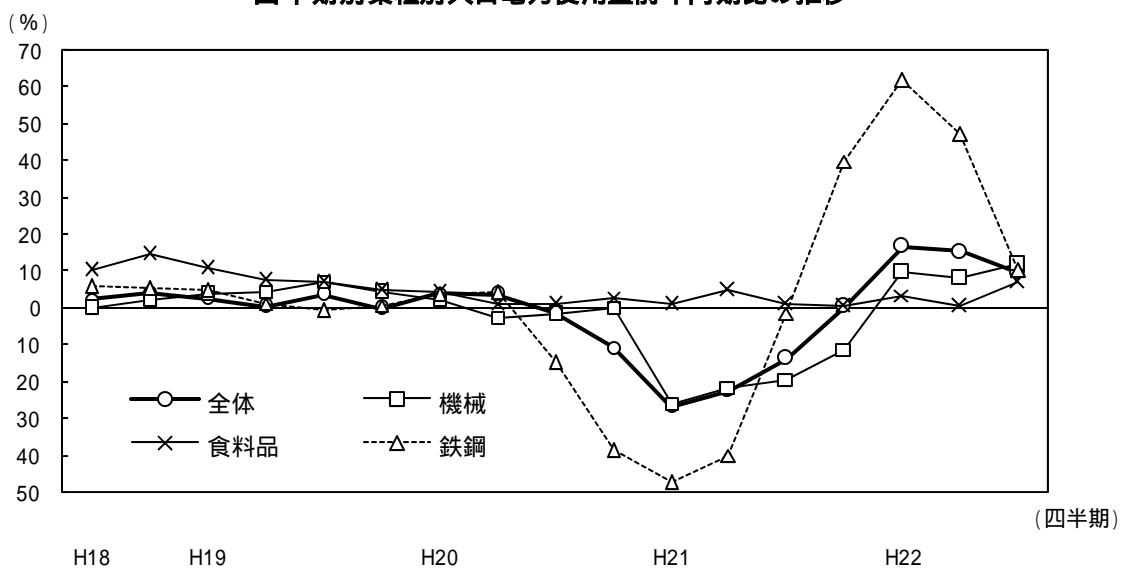
前期比では6.1%の増加となり、2期連続の増加となった。

### 四半期別業種別大口電力使用量及び前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)

### 四半期別業種別大口電力使用量前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店)

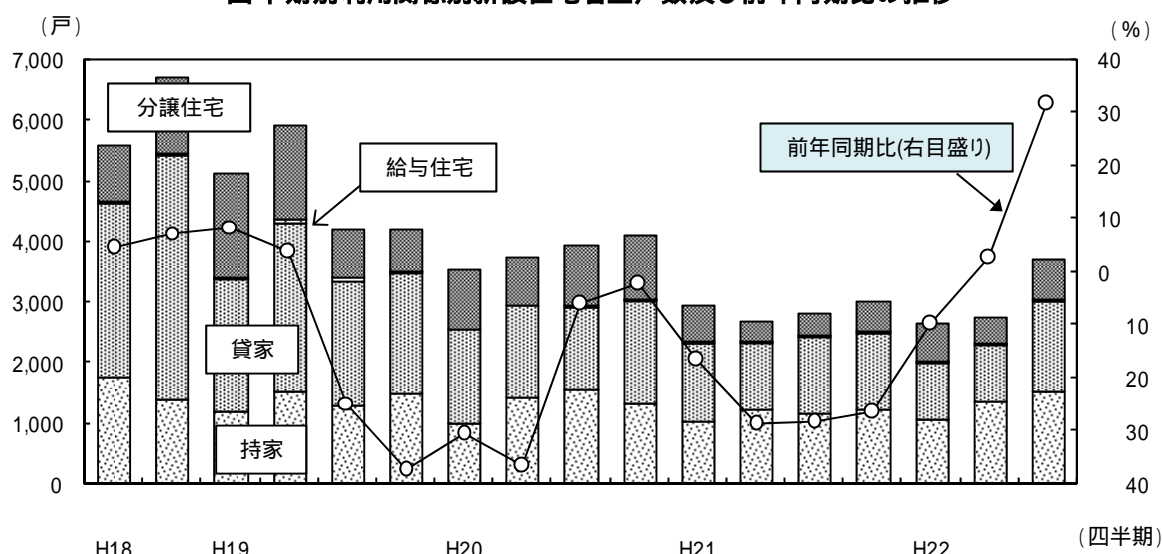
## 2 建設投資

### (1) 新設住宅着工戸数

平成 22 年第 3 四半期 (7 月～9 月期) の新設住宅着工戸数は 3,726 戸で、前年同期比が 31.5% の増加となり、2 期連続の増加となった。

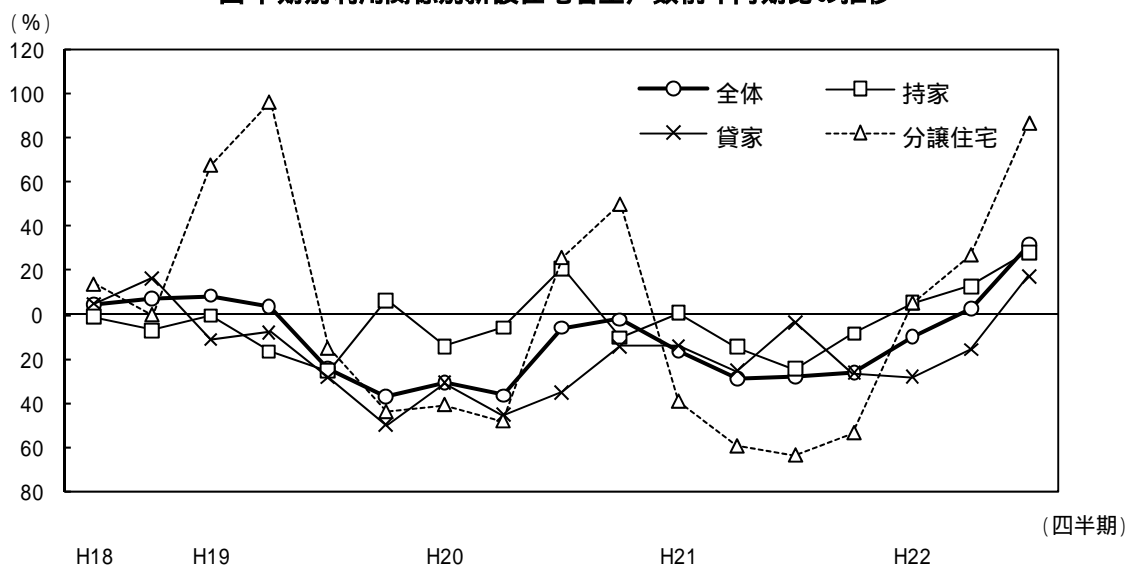
利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が 28.1% の増加となり、3 期連続の増加となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が 17.4% の増加となり、平成 18 年第 4 四半期以来、15 期ぶりに増加となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が 86.6% の増加となり、3 期連続の増加となった。

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数及び前年同期比の推移



(資料:国土交通省)

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数前年同期比の推移

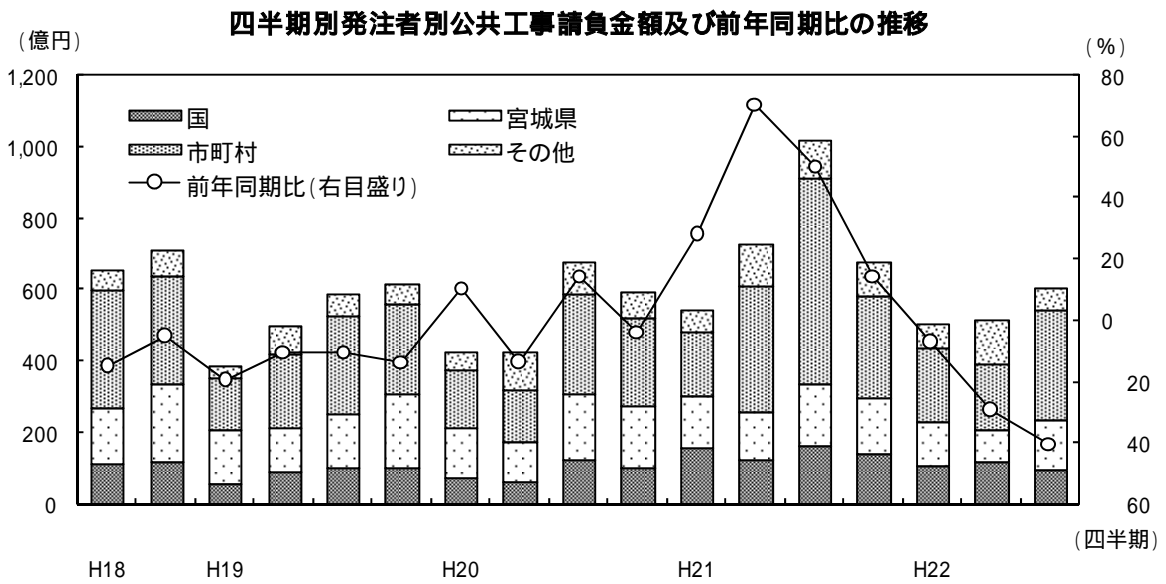


(資料:国土交通省)

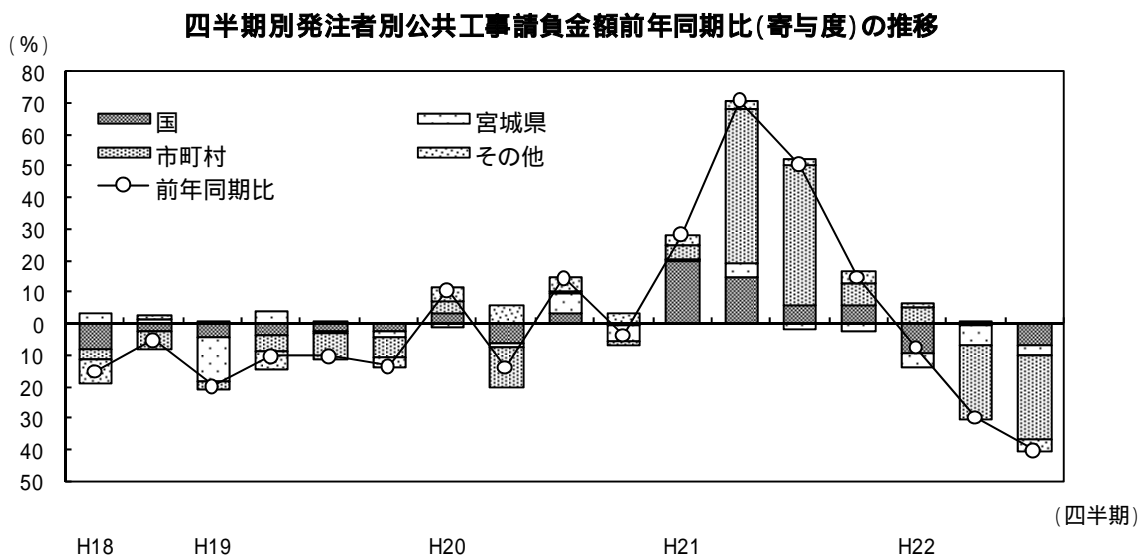
## (2) 公共工事請負金額

平成22年第3四半期(7月～9月期)の公共工事請負金額は609億2,800万円で、前年同期比が40.2%の減少となり、3期連続の減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が40.7%の減少となり、3期連続の減少となった。宮城県は前年同期比が19.0%の減少となり、5期連続の減少となった。市町村は前年同期比が47.4%の減少となり、2期連続の減少となった。



(資料: 東日本建設業保証(株))



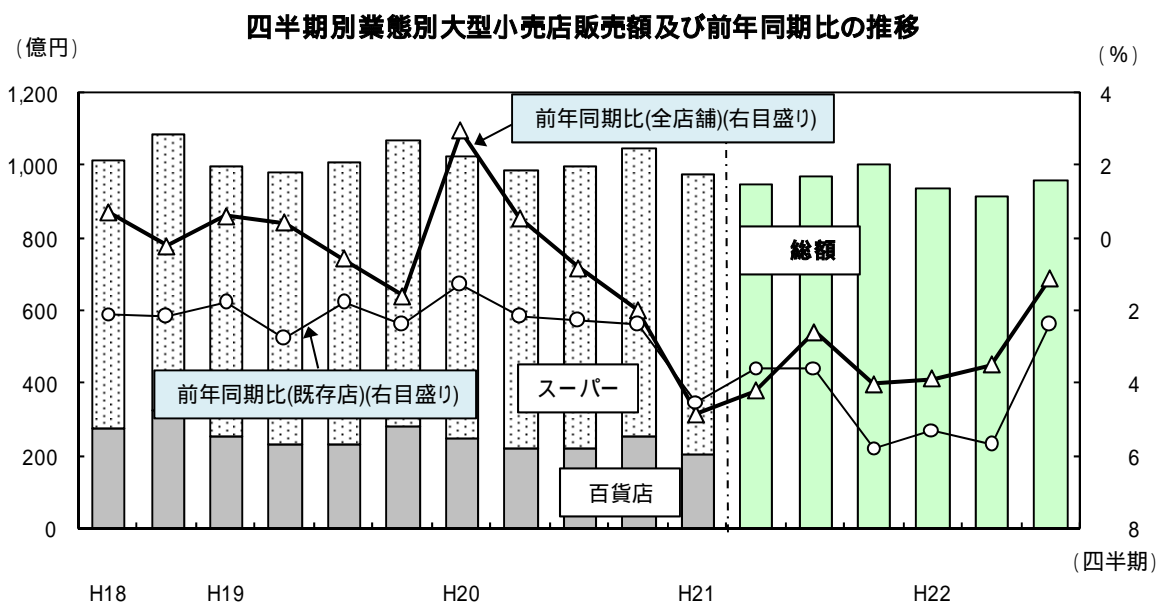
(資料: 東日本建設業保証(株))

### 3 個人消費

#### (1) 大型小売店販売額

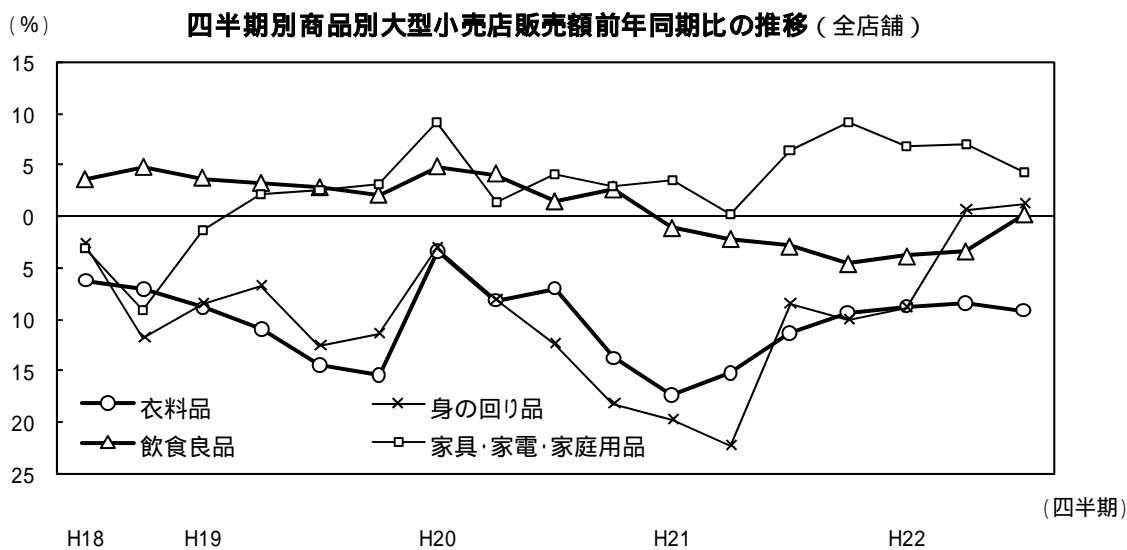
平成22年第3四半期(7月～9月期)の大型小売店販売額は962億3,900万円で、前年同期比(既存店比較)が2.4%の減少となり、平成11年第4四半期以降、44期連続の減少となった。また、全店舗比較の前年同期比は1.1%の減少となった。

商品別にみると、衣料品は前年同期比が9.2%の減少となり、平成18年第1四半期以降、19期連続の減少となった。一方、飲食料品は前年同期比が0.2%の増加となり、7期ぶりに増加となった。また、家具・家電・家庭用品は前年同期比が4.4%の増加となり、14期連続の増加となった。



平成21年4月から宮城県の業態別数値は秘匿となっております。

(資料: 東北経済産業局)



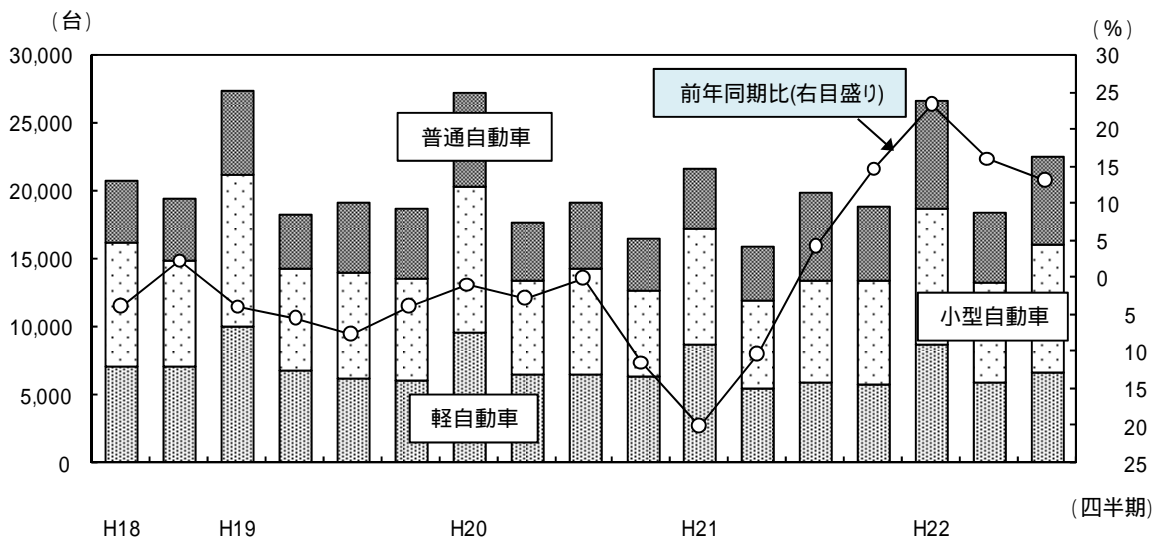
(資料: 東北経済産業局)

## (2) 乗用車新車登録台数

平成22年第3四半期(7月～9月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は2万2,523台で、前年同期比が13.0%の増加となり、5期連続の増加となった。

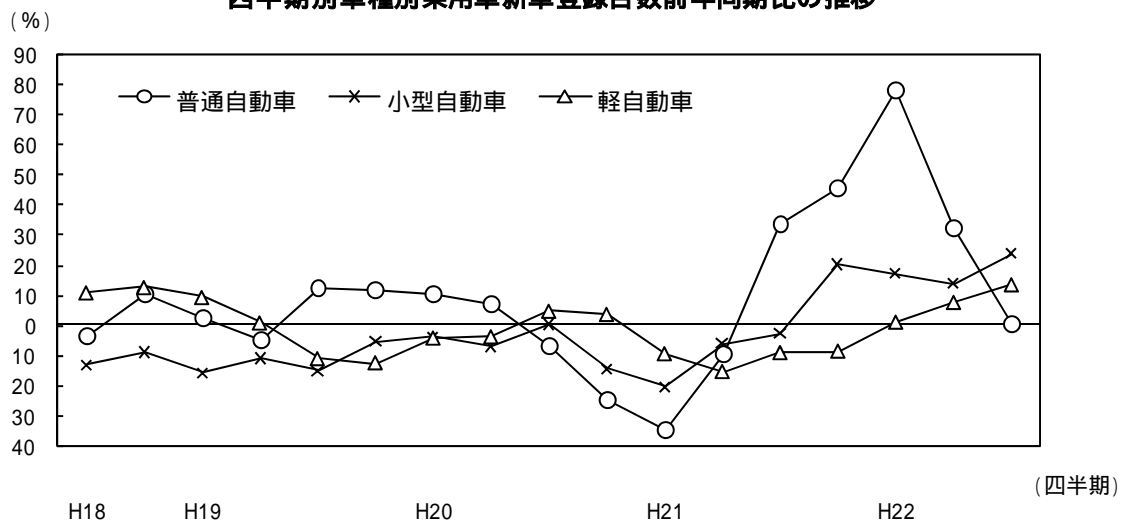
車種別にみると、普通車は前年同期比が0.2%の増加となり、5期連続の増加となった。小型車は前年同期比が23.6%の増加となり、4期連続の増加となった。軽自動車は前年同期比が13.3%の増加となり、3期連続の増加となった。

四半期別車種別乗用車新車登録台数及び前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

四半期別車種別乗用車新車登録台数前年同期比の推移



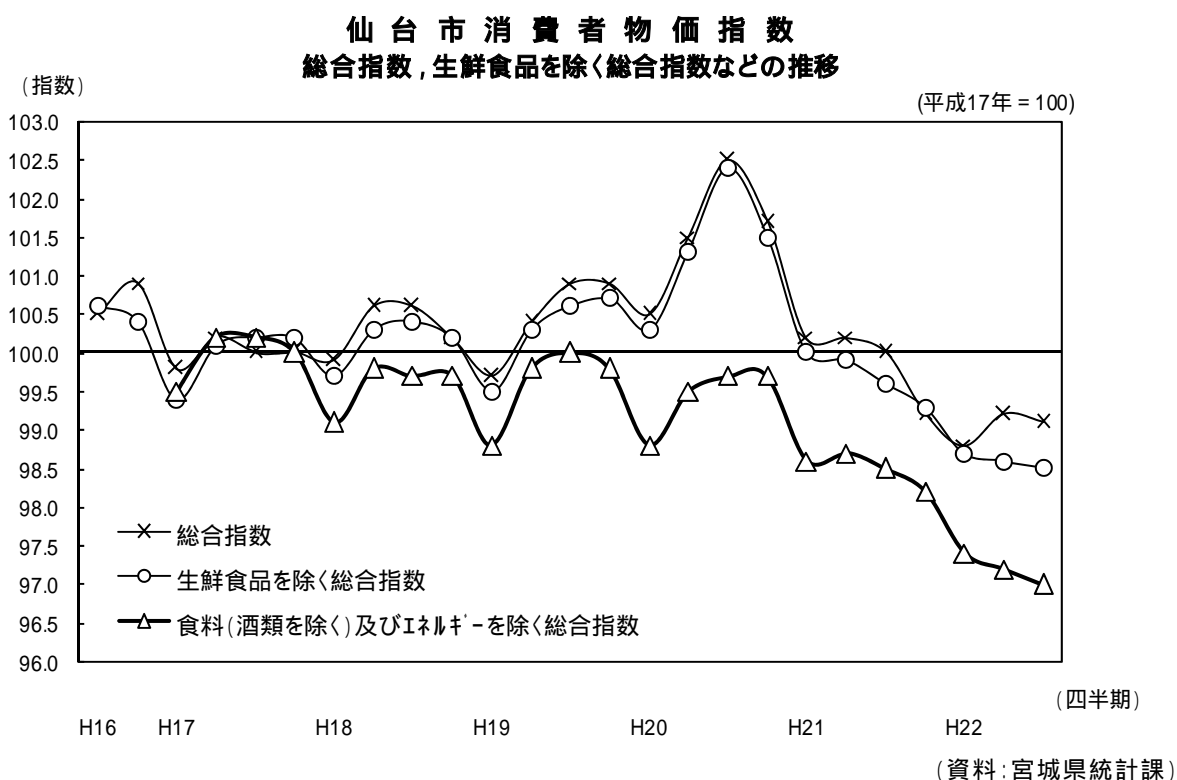
(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)



## 4 物 価

### 消費者物価指数

平成 22 年第 3 四半期 (7 月 ~ 9 月期) の平均仙台市消費者物価指数 (平成 17 年 = 100) は、総合指数は 99.1 で、前年同期比が 0.9% の低下となり、7 期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は 98.5 で、前年同期比が 1.1% の低下となり、7 期連続の低下となった。食料 (酒類を除く) 及びエネルギーを除く総合指数は 97.0 で、前年同期比が 1.5% の低下となり、10 期連続の低下となった。

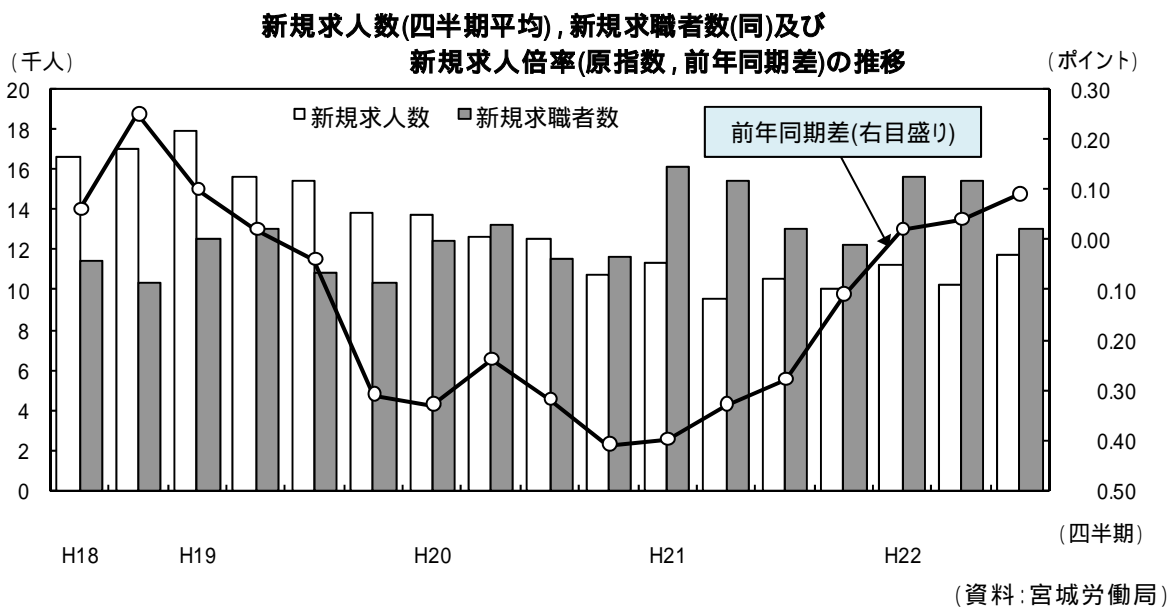
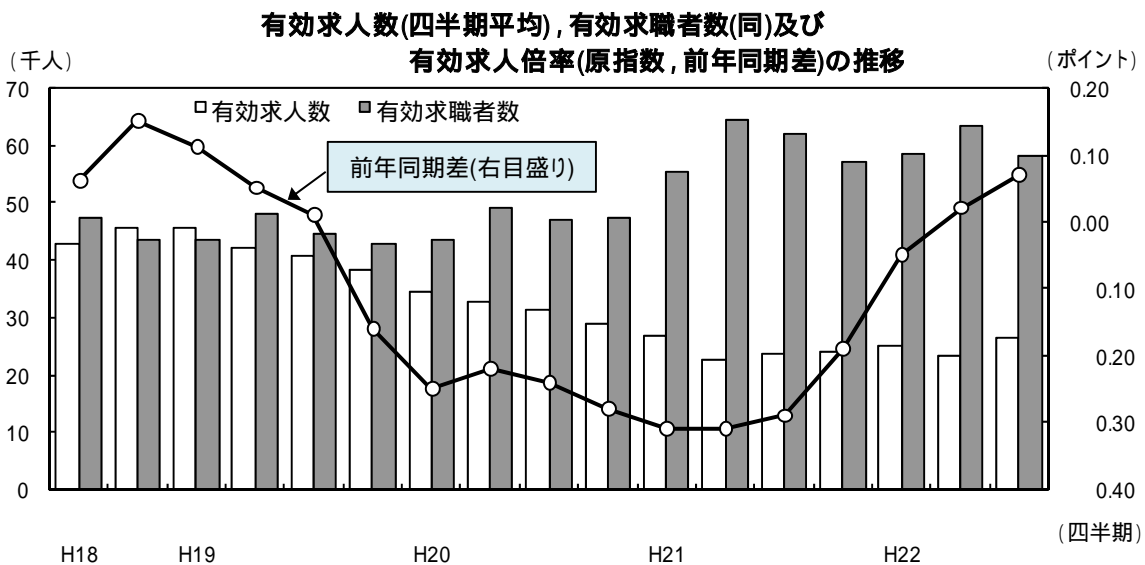


## 5 雇 用

### (1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 22 年第 3 四半期(7 月～9 月期)の有効求人数(月平均値)は 2 万 6,434 人で、前年同期比が 11.4%の増加となった。有効求職者数(同)は 5 万 8,195 人で、前年同期比が 6.0%の減少となった。有効求人倍率(原指数)は 0.45 倍で前年同期差は、0.07 ポイント上昇し、2 期連続の上昇となった。

新規求人数(月平均値)は 1 万 1,749 人で、前年同期比が 11.4%の増加となった。新規求職者数(同)は 1 万 3,033 人で、前年同期比が 0.1%の減少となった。新規求人倍率(原指数)は 0.90 倍で前年同期差は、0.09 ポイント上昇し、3 期連続の上昇となった。

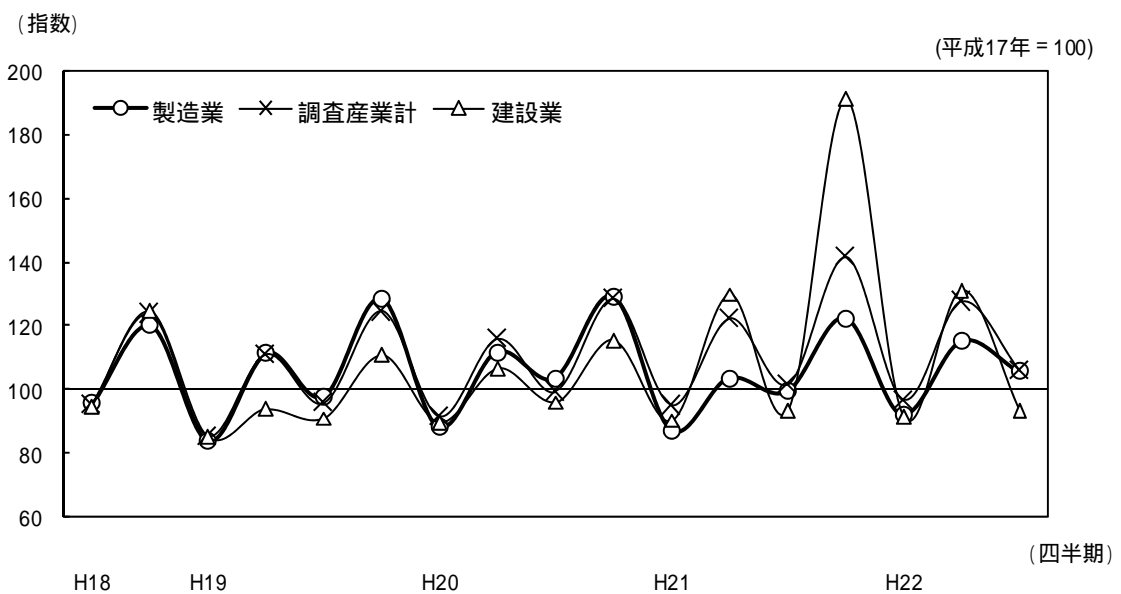


## (2) 実質賃金指数

平成 22 年第 3 四半期 (7 月 ~ 9 月期) の実質賃金指数 (平成 17 年 = 100) の調査産業計 (事業所規模 30 人以上) は 105.9 で前年同期比が 4.2% の上昇となり, 14 期連続の上昇となった。

主要業種別にみると, 製造業 (事業所規模 30 人以上) は 105.7 で前年同期比が 6.2% の上昇となり, 3 期連続の上昇となった。建設業 (事業所規模 30 人以上) は 93.4 で前年同期比が 0.1% の上昇となり, 4 期連続の上昇となった。

四半期別主要業種別実質賃金指数の推移 (事業所規模 30 人以上)



(資料: 宮城県統計課)

## 6 倒産

### 企業倒産

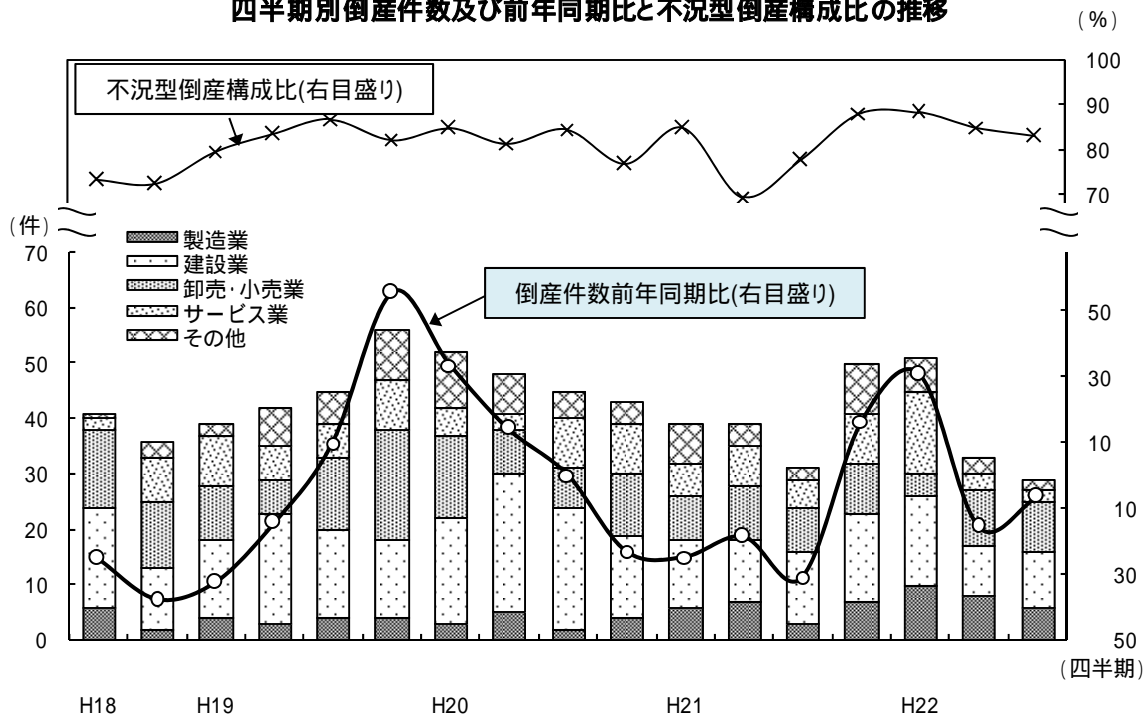
平成22年第3四半期(7月～9月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は29件で、前年同期比が6.5%の減少となり、2期連続の減少となった。

負債総額は133億1,000万円で、前年同期比が369.7%の増加となり、2期ぶりに増加となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は24件で、前年同期と同件数となった。件数の構成比は82.8%で、前年同期より5.4ポイント上昇となった。

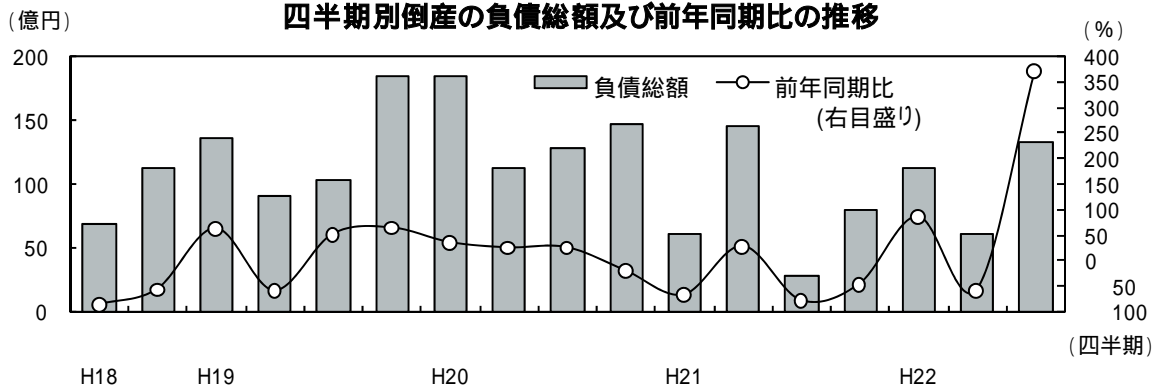
大型倒産(負債総額10億円以上)は1件発生し、前年同期より1件増加した。負債総額は101億9,800万円であった。

四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)

四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)